

「災」を今に伝える場所を「Seeing」



◆はじめに

減災連携研究センターでは、この度、第31回特別企画展「災とSeeing」を開催いたします。「災とSeeing」とは、各地に残される自然災害にまつわる石碑や史跡などを訪れ、過去の自然災害に関わる学びを、今後の備えとしての防災・減災活動に活かすことを目指した一連の取り組みです。過去の災害に触れ、その時そこで経験された当時の人々の思いを実感することで、次の災害への備えを考えることができるのではないかと——そんな思いから、このプログラムを企画し、各種の映像コンテンツを作成しました。

「災とSeeing Tour」では、石碑や史跡を巡るツアーを疑似体験できる映像コンテンツをご覧頂くことができます。「災とSeeing Map」では、地図上の各地点のシンボルマークをクリックすると、各地点の解説・写真・動画がご覧になれます。

過去に自然災害が起こった場所を実際に訪れ、災害の歴史を直視し、先人の辛苦や願いに思いを馳せることは、今を生きる私たちの防災意識の芽生えや向上に大いに寄与します。皆さまの身近で発生する自然災害を自分事として考え、いざという時には自分自身や大切な人を守るための備えにつなげて頂ければ幸いです。

◆「災とSeeing」の背景

「災とSeeing」作成の背景には、これまで減災連携研究センターが長年取り組んできた研究や活動の知見の蓄積があります。

これまで、現代社会の災害脆弱性や地域の地震危険度を一般国民ひとりひとりに分かりやすく説明するための研究として、地名と地盤の関係や浮世絵と地盤特性の関係、あるいは各種古地図の収集・分析などを行ってきました。

歴史災害に興味を持つ地元の人たちが集まり、意見交換をし、成果をまとめて後世に伝えられる場として、2012年に「中部『歴史地震』研究懇談会」を発足して、調査・研究活動、歴史地震の知見の普及、ネットワーク構築活動を継続しています。

災害の文書記録を調べることで、過去の自然災害について知ることができますが、それには、過去の文献をひもとく必要があります。そこで、地域に残る歴史資料を収集して過去の災害について調査するとともに、史料解読の人材育成を行うことを目的に「古文書勉強会」を開催しています。

また、「災とSeeing」に結びついた、県内に広く分布している碑・史跡、記録、市町村誌(史)、体験談等を網羅的に収集・整理した「防災・減災ガイド」を作成したり、地域に残る災害碑、史跡等とともに地域の季節のイベント、観光名所等も合わせて紹介する「歴史災害記録と『旬のあいち』」を毎月発行しています。

企画展ではこれらの取組を紹介いたします。

「災とSeeing」は、これらの継続的活動の成果及びネットワークをベースとして、これに新たな知見・ツールを組み合わせた活動です。未来へ続く新たな展開をお楽しみ下さい。